

瀬戸大橋架橋記念館と味野公園

高知県技術士会代表幹事 右城 猛

1. まえがき

岡山県と島根県と香川県の県技術士会が、平成 20 年に瀬戸内・日本海縦断技術士会を立ち上げて技術交流と親睦を深めていたようであるが、今年から鳥取県技術士会と高知県技術士会が加わり、9 月 17 日に「平成 23 年度太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会 in 岡山」が倉敷市児島産業振興センターで開催されることになった。

高知県技術士会からは小澤修幹事、池本正英幹事、横山成郎幹事、それに代表幹事の私の 4 名が参加することになり、私の車に乗り合わせて第一コンサルタンツを 9 時過ぎに出発した。

会議は 12 時 45 分からであるが、11 時に到着した。会場の近くで時間調整の出来そうな場所を最近愛用している iPod で調べると、倉敷市瀬戸大橋架橋記念館が見つかったので、そこを見学することにした。

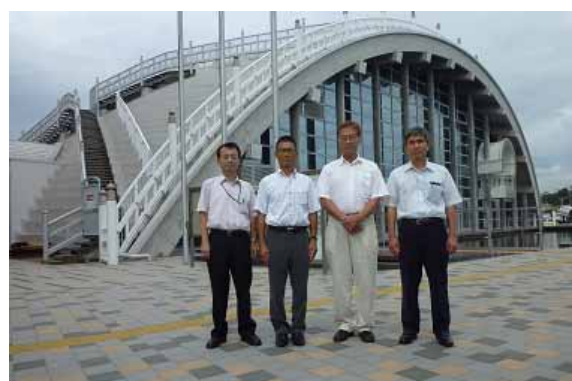
2. 倉敷市瀬戸大橋架橋記念館

iPod の We Map を頼りに瀬戸大橋架橋記念館を探したが、その場所には倉敷市児島市民交流センターという建物が建っていた。不思議に思い、インターネットで調べると、ウィキペディアに下記の説明が書かれており、瀬戸大橋架橋記念館が、敷市児島市民交流センターに改修工事中であることが分かった。

『当施設は 1988 年(昭和 63 年)4 月 10 日、児島・坂出ルートの本州四国連絡橋「瀬戸大橋」の開通を記念して博物館として建てられた。その後、入場者の減少と倉敷市の財政改革のため 2004 年(平成 16 年)4 月より地域の多目的施設となり、建物は倉敷市が所有し、(株)さんびるが指定管理者として運営していた。しかし、2010 年(平成 22 年)3 月 31 日に閉館。隣接する敷地に新たに整備される児島市民交流センター(仮称)の一部として改修される予定である』



太鼓橋を形取った旧・瀬戸大橋架橋記念館



屋根の上は太鼓橋と同様に階段になっている。



改修工事中の建物の入り口には、「倉敷市児島市民交流センター交流棟」と表示されている。

3. 味野公園

倉敷市児島市民交流センター交流棟(旧・瀬戸大橋架橋記念館)の北隣に、日本の歴史的橋梁を一同に集めた公園があった。味野公園である。

公園の表示板に下記の説明文があった。

『味野公園は、瀬戸大橋記念事業の一環として、児島カルチャースクエア内に設けられた日本の昔の橋をテーマとする「橋の公園」である。浮世絵師・葛飾北斎が描いた“諸国名橋奇覧”などに登場する橋のほか、橋の原形ともいべきものを加え、11橋とした。従ってこの橋の公園は“北斎公園”ともいいうべきものである。全体の構成は、回遊式の和風庭園としており、各橋は景観の対象であると同時に、眺望所ともなっている。また、この11橋は「一筆書」のように、同じ橋を二度以上渡らず、しかも、全体の橋を渡ることができるという順路構成が隠されている。ぜひ、その順路を見つけてください』

味野公園には、11の珍しい橋のレプリカが陳列されているようであるが、改修工事中であったので、公園内に入ることも、瀬戸大橋架橋記念館の屋根の上から一望することも出来なかった。公園の外から橋のいくつかを写真撮影するのがやっとであった。

えちぜん福井の橋

丸木橋

吉野の野猿

飛騨の堺つりはし

足利行道山くものかけはし

沢飛

かうつけ佐野ふなはし

三河の八つ橋

羽根田弁天の橋

琉球の石橋

家橋

公園の外から確認できた6橋を紹介する。橋の横に設置されている石灯籠に、橋の説明文が刻まれていたので、写真と一緒にその説明文を紹介する。

工事前の公園の池には、水が張られ、睡蓮の花が見られていたようである。

(1) えちぜん福井の橋 (福井県)



十四世紀、越前国福井の城下町に架けられた橋で、その半分は石橋、半分は木橋であるこの奇矯は、別名、掛合橋とも称せられた。橋の両端に高門を建て、海内無双を誇ったという。

この橋が長い歴史の幕を降ろしたのは、明治四十二年のことである。



橋の名前と説明文を記した石灯籠

(2) 羽根田弁天の橋(東京都)



海辺の低湿地に、両側から中央の高みへ向かって板を架け渡した簡便で単純な構造のこの橋は、羽田空港にその名を残す羽根田弁天の森に架けられていた。海上安全の守護神として信仰を集め、風光明媚な地として繁栄した弁天社も、今は近くの水神社に合祀されている。

(3) かうつけ佐野ふなはし(群馬県)



「舟橋は、どこの国にも古くからある。舟とロープさえあればかんたんに橋がかけられるため、いつの時代にも、よくもちいられた。万葉集に、“毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離かるがへ”という歌がある。」

(4) 足利行道山くものかけはし(栃木県)



奇岩怪岩に富み、古くから関東四道場の一つとして知れた行道山の山中に浄因寺があり、寺域の清心亭へ向かって架けられたのがくものかけはしであろうと言われている。両岸から月持桁(芻木はねぎ)を突き出しその上に橋桁をのせる合掌橋です。

(5) 琉球八景 泉崎花月の石橋(沖縄県)



現在も那覇市内に残っており、十七世紀の架橋以来、素朴で力強い姿を歴史の流れに映している。石造のアーチ橋が中国渡来の技術によって造り始められたのは、十五世紀になってからである。

(6) 家橋(京都府)



屋根のある橋。正しくは「屋形橋」と言う。日本では庭園などにある廊下橋と神社の参道にかかる鞘橋(さやばし)がある。なお、庭園などにある橋は、多くの貴人が月や紅葉をめでのための建築で平安神宮の橋殿などが有名です。

(平成 23 年 9 月 21 日記)